

解答 I (A) 1世紀にも及ぶ知能テストの後でも知能が何であるかということについて一致した意見はないのだが、知能が何でできていようがそれは創造性とは違うようだ。知能的技術と芸術的創造力は確かに互いに排除し合うものではないが、両者が必ずしも相伴うというわけでもない。(B) 17世紀になっても多くの哲学者が実験で手を汚すことさえなく、どれほど物理的世界の本質を抽象的に考えていたかを理解するのは難しい。典型的な例は、同じ高さから同時に落とされた2個の異なったおもりは同時に地面に着くかどうかという議論である。

II 設問(1) (A) (イ) (B) (ニ) (C) (イ) (D) (ハ) 設問(2) ① (ロ) ② (イ) ③ (イ) ④ (ニ)

設問(3) 実験者が帰ってくるまで待てずにおやつを食べてしまい、2つ目のおやつをもらえなかったこと。

設問(4) これらの子供たちはおやつのことを考えない方法を見つけ出して、非常においしいマシュマロから目をそらしていた。設問(5) (ニ) 設問(6) (ロ) 設問(7) 結局のところ私たちは情報化時代に生きており、そのため、大切な情報に集中できる能力というのは大変重要である。

III 解答例: Yes, I would want to use a time machine. I would want to go to the past to avoid many wars human beings experienced. Too many lives have been lost and too many people have lost their loved ones in wars. Moreover, wars have produced too much hate in the world, making it difficult for the future generations to cooperate. By eliminating all the wars, I believe we can achieve a better world. (74語)

IV (A) Written sentences are after all just things. Therefore we cannot help but feel that they cannot really convey our true feelings. We regret that we didn't rewrite them. That's how risky written sentences can be.

(B) (イ) Human beings cannot live without having their past on their shoulders. The accumulation of the past makes who we are today. Therefore, we cannot talk about who we are today without facing who we were in the past. Those who cannot accept who they are today probably remember only regretful things from the past. On the contrary those who can accept who they are today probably can also accept what happened in the past.

(ロ) We should not criticize the students saying "You cannot analyze problems," "You don't have your own opinions," if they haven't learned how to analyze problems or how to make a good argument. That is just asking too much. That is just like scolding the students saying "Why can't you swim?" when they still haven't learned how to swim.

解説 I (A) A consist(s) of B 「AはBでできている」、appear to be ~ 「~のように思われる」、mutually exclude each other 「互いに排除し合う」、neither do they necessarilyのneitherは否定の意味であり、not necessarily ~で「必ずしも~でない」。(B) the extent to which S + V 「どれほどSがVするか」、in an abstract way 「抽象的に」、get one's hands dirty 「手を汚す」、the classic example 「典型的な例」、whether S + V 「SがVするかどうか」、at the same time 「同時に」

◎ (A) 類い希な創造性と才能が教育施設内での訓練からすり抜けてしまう傾向にある根本的な理由は、それらが動機や個性といった多くの要素に起因している一方で、学校や大学などが主に一つの要素——知能——だけに重きを置くからである。1世紀にも及ぶ知能テストの後でも知能が何であるのかということについて一致した意見はないのだが、知能が何でできていようがそれは創造性とは違うようだ。知能的技術と芸術的創造力は確かに互いに排除し合うものではないが、両者が必ずしも相伴うというわけでもない。

(B) ガリレオと同様に、ニュートンは理論やモデルを実験や実際の世界の観察と比較することの重要性を強調し、自分の考えを試すためにできるときはいつでも関係のある実験を自ら行っていた。これは、今日、科学的方法から切っても切れないこととなっているので、科学者ではない人たちにとっても当たり前のように思えるかもしれないし、17世紀になっても多くの哲学者が実験で手を汚すことさえなく、どれほど物理的世界の本質を抽象的に考えてい

たかを理解するのは難しい。典型的な例は、同じ高さから同時に落とされた2個の異なったおもりは同時に地面に着くかどうかという議論である。

II 設問(1) (A) participate in ~ 「~に参加する」
(B) follow up with ~ 「~を追跡調査する」
(C) odds against ~ 「~でない確率〔可能性〕、~しない確率〔可能性〕」
(D) 直後の文に「結局、私たちがコントロールできるのはこれだけかもしれない」とあるので、「私たちはコントロールすることができる」という文脈になるはずである。

「それでもなお」という意味になるstillが正解。

設問(2) ① inherently は「本来的に」の意味であり、「根本的に、基本的に」の意味のfundamentallyが正解。他の選択肢の訳は次のとおり。(イ)「極端に」、(ハ)「時々」、(ニ)「同時に」。

② allocation は「割り当て」の意味なので、同じく「割り当て」の意味のassignmentが正解。他の選択肢の訳は次のとおり。(ロ)「定義」、(ハ)「啓発、啓蒙」、(ニ)「保護」。

③ parse は「解析する」の意味なので、「分析する」のanalyzeが正解。他の選択肢の訳は次のとおり。(ロ)「反論する、矛盾する」、(ハ)「保護する」、(ニ)「証明する」。

④ eroded はerode「損なう、むしばむ」の過去形・過去分詞形なので、「すり減らす」の意味のwear awayの過去形・過去分詞形のworn awayが正解。他の選択肢の訳は次のとおり。(イ)「増大する」の意味のbuild upの過去形・過去分詞形 (ロ)「片付ける」の意味。putは現在・過去・過去分詞形が全て同形。(ハ)「組み立てる」の意味。

set も現在・過去・過去分詞形が全て同形。

設問3 実験の内容が第1, 2段落に言及されているので、この部分をまとめればよい。

設問4 find a way to ~ 「~する方法を見つけ出す」 keep oneself from ~ing 「~しないでいる」 directing their gaze away from the yummy marshmallow の部分は分詞構文。「~しながら, ~することによって」

設問5 直前の文に、相関性の説明として「マシュマロのために15分待つことができた子供たちの大学進学適性試験の点数は、30秒しか待てなかった子供たちよりも平均210点高かった。」とあるので、(ニ)「自分たちがほしい物から注意をそらすことができた子供たちは、大きくなってから学力がより優れていた。」が正解。

設問6 (イ)「ウォルター・ミシェルによる一連の心理学実験で、人間の意志は本質的に強く、日常生活の様々な誘惑に打ち勝つことができることがわかった。」第2段落第5文に矛盾。(ロ)「科学者たちは、以前は、人が将来の利益のために直近の欲望を犠牲にできるには強い決断力が重要な役割を果たしていると信じていた。」第2段落第1文に一致。(ハ)「あなたのキャリアにおいて成功を勝ち取るためには自分に注目を集めたいという欲望が重要である。」本文に言及なし。(ニ)「ウォルター・ミシエルの発見とは、自分の注意力を適切に管理する能力に自制心はほとんど関係ないということだ。」第4段落第1文に矛盾。

設問7 after all 「結局のところ」, in the age of information 「情報化時代に」, the ability to ~ 「~する能力」, make A B 「AをBとする」。

◎ 1960年代後半に心理学者のウォルター・ミシェルは4歳児たちを使って簡単な実験を始めた。彼は子供たちを机と椅子がある小さな部屋に招き入れて、マシュマロとクッキーとプレッツェル棒がのったお盆からおやつを取るように頼んだ。そして彼は4歳児たちに、すぐにおやつを1つ食べるか、彼が席をはずしている少しの間待って帰ってきたときに2つ食べるか聞いた。ほとんどの子供たちが待つ選択をしたのは驚きではない。

当時、心理学者たちは、2つ目のマシュマロやクッキーをもらうために喜びを遅らせることができる力は意志力によるものだと考えていた。他の人たちより単に意志が強い人たちがいて、そういう人たちは誘惑的なおやつを拒否したり、引退後のためにお金を貯めることができるというのだ。しかし、マシュマロの実験に参加する何百人もの子供たちを観察した後に、ミシェルはこの標準モデルは間違っているとした。彼は、意志力というのは元々弱いものであり、誘惑に直面して歯をギシギシ言わせておやつを待とうとした子供たちが、すぐに——30秒以内のことも多かった——その戦いに負けるということを理解するようになった。

その代わりに、ミシェルは2つ目のお菓子を待つことに成功したほんのわずかの比率の子供たちを観察しているときに、面白いことを発見した。これらの「待ったができる子供たち」はみな、例外なく、同じ心理的戦略に頼っていた。彼らはおやつのことを考えない方法を見つけ出して、非常

においしいマシュマロから目をそらしていた。目を覆い隠したり、机の下でかくれんぼをした者もいた。セサミ・ストリートの歌を歌ったり、何度も靴ひもを結んだり、昼寝をするふりをする者もいた。欲望が打ち負かされたのではなく、単に忘れられたのだ。

ミシェルはこのスキルを「注意力の戦略的割り当て」と呼び、彼はこれが自制心の基となる技能だと論じた。よく私たちは、意志力というのは強い道徳心をもつことだと考える。しかし、これは間違いだ。意志力というのは、本当は、作業記憶の中にある思考の短い一覧表をいかに管理するかを学びながら、注意的を適切に絞り込むことだ。それは、マシュマロのことを考えていたら食べてしまうので、見ないようにすることが必要だと気づくことだ。

興味深いのは、この認知技能はダイエットをする者にだけ役立つのではないということだ。それは現実社会で成功するのに最も重要なことのようなのだ。例えば、ミシェルが元の実験被験者を13年後に追跡調査すると、彼らは今や高校3年生なわけだが、マシュマロ実験での結果は実に様々な指標を予測するのに効果的であったことを彼は発見した。4歳の時に待つことが難しかった子供たちは学校でも家庭でも行動的問題があることが多かった。彼らはストレスのある状況では苦勞し、よく注意を払うことが難しく、友情を維持するのが難しかった。恐らく一番印象的なのは学業に関する数字である。マシュマロのために15分待つことができた子供たちの大学進学適性試験の点数は、30秒しか待てなかった子供たちよりも平均210点高かった。

これらの相関性は、注意を戦略的に向けることを学ぶ重要性を示している。適切に注意をコントロールすると、私たちは悪い考えや危険な誘惑を拒否することができる。私たちはケンカから立ち去り、中毒(常用癖)にならない確率を上げることができる。私たちの決心は、事実や脳の中で跳ね回っている感情によって動かされるが、注意を分配し、考えたいことを意識して選ぶことで、この成り行き任せの行程を管理することができるようになる。

その上、この心理的なスキルはさらにもっと価値がある。結局のところ私たちは情報化時代に生きており、そのため、大切な情報に集中できる能力というのは大変重要である。(ハーバート・サイモンが、これを、いみじくも、「豊富な情報は注意力の欠乏を生む」と言った。)脳は限界のある機械であり、世界はデータや気を散らすものであふれかえっている、ややこしい所だ。知性というのは少しだけでも意味がわかるようにデータを分析する能力だ。意志力と同様にこの能力には注意力の戦略的分配が必要だ。

最後にもう一つ。ここ数十年の間に心理学と脳科学は、古典的な意味での自由意志というものの概念を著しく失わせた。潜在意識が意識の大半を占めるということがわかったのだ。それにもかかわらず、私たちは自分たちを成功に導いてくれる考えに注目することで注意力をコントロールできるのだ。結局、私たちがコントロールできるのはこれだけかもしれない。私たちはマシュマロを見なくていいのだ。

Ⅲ まずはタイムマシンを使ってみたいか (“I would want to use a time machine.”)使ってみたくないか (“I would not want to use a time machine.”)を明確に述べる。理由を具体的に2つほど述べ、最後にまとめの文を一つ述べる。解答例に出てきた表現は次のとおり。avoid「避ける」、Too many lives have been lost「多くの命が奪われすぎた」、one's loved ones「～の愛する人たち」、in wars「戦争で」、making it difficult for A to B「AがBするのを難しくして」。

Ⅳ (A) ここでいう「文章」とは書かれたものなので、written sentencesと明確にする。after all「結局のところ」、cannot help but～「～せずにはいられない」。「生の声」はつまり「本当の気持ち」ということなのでtrue feelingと英訳することができる。rewrite「書き直す、書き換える」、risky「危うい」。

(B) (イ) cannot live without～ing「～せずには生きられない」、the accumulation of the past「過去の積み重なり」、who we are today「今日の私たち」、who we were in the past「昔の私たち」、on the contrary「反対に」、accept「認める、受け入れる」。(ロ) criticize A saying～「～と言いながらAを批判する」、how to～「～の仕方」、that is just asking too much「それはないものねだりである」。